

「こおりやまの米」通信

平成30年9月

編集:郡山市

JA福島さくら郡山地区本部 (TEL. 921-0533)

NOSAI福島郡山田村支所 (TEL. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会

(郡山市園芸畜産振興課 TEL.924-3761)



Vol.7 刈取り適期特集

こおりやまの米通信

検索

*最新号はJA各支店窓口にそなえてあります

1 生育状況

平坦部での出穂期は「コシヒカリ」で平年より3日早く、その他の品種で平年より5~6日早くなりました。なお、湖南町の「あきたこまち」は6日早くなりました(下表)。出穂期が早まり、成熟期も早まる見込みです。

郡山市・JA福島さくら・県で設置している作況および肥料・農薬展示ほ場の9月5日の生育状況は、こおりやまの米通信ホームページに掲載されますので、参考にしてください。



【郡山市ホームページ】

表 出穂後の積算気温による刈取り適期の判定

地域	主な品種の出穂期と平年差			8月26日までの積算気温(°C)	各積算気温の到達予想日*		
					950°C	1,000°C	1,050°C
					ひとめぼれ	天のつぶ	
					あきたこまち		
平坦部	ひとめぼれ	7月29日	-6日	707	9月6日	-	-
	天のつぶ	7月31日	-5日	653	-	9月11日	-
	コシヒカリ	8月8日	-3日	446	-	9月22日	9月25日
湖南町	あきたこまち	7月29日	-6日	663	9月9日	-	-



※「各積算気温の到達予想日」は、8月26日までの実測値、それ以降は平年値で算出。

なお、平坦部はアメダス郡山、湖南町はアメダス猪苗代のデータで算出。

※上記の到達予想日は目安です。必ずほ場を確認し適期収穫に努めましょう。

2 適期刈取り

【刈取り時期が早いと・・・】

- ・作業能率が悪い
- ・未熟米・死米が多くなる

【刈取り時期が遅いと・・・】

- ・胴割れ米・着色米が増加
- ・光沢がなくなり品質低下

(1) 出穂後の積算気温による方法

出穂期からの平均気温を積算し刈取り適期を推定できます。

ただし、高温条件下では積算気温による適期予想と穂の黄化状況にずれが生じやすいので、穂相(右図)をみて判断しましょう。

(2) 穂の黄化状況から見た適期

ほ場全体を見渡して平均的な株の穂の黄化程度を観察し、籾の80~90%が黄化し、穂軸に緑色が60%程度残る時期が刈取り適期です。

ほ場によって地力の違いから黄化率に違いがありますので、収穫間際になったらほ場ごとに確認し刈遅れを防ぎましょう。

※ほ場内での生育ムラにより倒伏した箇所や熟期の遅い箇所を一度に収穫・調製すると、収穫物全体の品質を落とすこととなります。状況に応じ刈分けを行いましょう。



図 刈取り適期の穂相

ガス湧き予防対策に秋耕を

近年、田植後のガス湧きによる生育不良が問題になっています。発生がひどかったほ場では、予防策として収穫後すみやかに稲わらすきこみを行いましょう。同時に稲わら腐熟促進剤(商品名:ワラ分解キング等)を使用すると、稲わら分解が促進されます。

3 収穫と調製のポイント

(1) 刈取り時の水分

コンバイン収穫では、葉に朝露が残っていたり籾水分が高いと脱穀部の網目が詰まり、収穫ロスや損傷粒の増加、機械の故障の原因となります。

稲体の乾いたほ場から収穫作業に入りましょう。

また、あらかじめ畦畔の除草を行い、水分の高い畦畔草を巻き込まないようにしましょう。

(2) 刈取りの作業速度

作業速度が速すぎると機械の選別性能が追い付かず、詰まりや選別ロスが多くなります。また、扱き胴の回転数も同様に高すぎると脱ぶ粒が増加し品質低下の原因となります。

作業前に今一度コンバインの取り扱い説明書を確認し、適切な作業速度・回転数を確認しましょう。

(3) 収穫ロスを防ぐために

藁切り刃（扱き胴の受け網部分についている）を点検し、摩耗している場合は刃を研ぐか新品に交換しましょう。

また、遅れ穂を無理に収穫すると詰まりの原因となるため、逆に収穫ロスが増えてしまいます。遅れ穂のほとんどはくず米です。無理な深こぎは控えましょう。

【秋の農作業安全確認運動】 重点推進期間中(9月1日～10月31日)

まずはワンチェック、ワンアクションで 農作業安全

郡山市では、昨年、農作業中に死亡事故が発生しました。事故予防のため、以下の点などに注意し、事故防止に努めましょう。

- 1 使用前に必ず機械の点検・整備を行う。
- 2 慣れた道でも、道幅や路肩状態を必ず確認する。
- 3 コンバインを動かすときは、周囲に人がいないことを確認する。
- 4 進入退出路をバックで走行させるときは、補助者による誘導や確認を行う。
- 5 機械が詰まったときや点検・整備作業の際は、必ずエンジンを切る。
- 6 手こぎ作業は巻き込まれにくい服装で。
- 7 軽トラックへの米袋等の過積載はしない。

(4) 収穫物の予措

コンバイン収穫した籾を放置すると、品質低下の原因となります。収穫した生籾は3時間以内を目安に乾燥機に張り込みましょう。

(5) 乾燥調製準備

乾燥機、籾摺り機等は使用前に良く掃除し、異品種や異物の混入が無いよう注意しましょう。

(6) 乾燥作業

高水分の生籾が含まれる場合はテンパリングを行い、乾燥ムラを防ぎましょう。

仕上げ目標水分15.0%を守ってください。

(7) 籾摺りから選別まで

選別は、選別機の網目1.85mm以上を用い、機械の能力に合った流量を守ってください。穀温が高い時の籾摺りは肌ズレしやすいので注意してください。

計量器はあらかじめ点検し、決められた量目で袋詰めしてから出荷するよう心掛けましょう。

農薬のボトル等の 適正処理のおねがい

農薬のボトル等の使用済プラスチック類は「産業廃棄物」となるため、ごみ集積場やクリーンセンターへの搬入はできません。

J A福島さくらでは11月に回収処理代行を実施しておりますので、詳しくはお近くのJ A支店へお問い合わせください。



平成30年産米の全量全袋検査への 御理解と御協力のおねがい

昨年に引き続き平成30年産米についても販売米、縁故米、飼料用米、くず米等、生産されたすべての米を対象とした「全量全袋検査」を実施します。JAや米穀集荷業者等で行う検査を受けてから米を販売譲渡、消費されるようお願いいたします。

なお、土やゴミ等の異物混入による基準値超過を防ぐため、米の調製作業時は、作業場や乾燥・調製機械の清掃等、異物混入の防止策の徹底をお願いいたします。

問い合わせ先

郡山市農業政策課 TEL 024-924-2201
県中農林事務所農業振興普及部 TEL 024-935-1310

野焼きは原則禁止です！

空気が乾燥し、火災が発生しやすい気象条件となっていますので、火災予防に努めてください。